



***ブナの森は最も安定した生態系**／ブナの森は植物

の発達が極致に達した森林で、気象条件が一定ならば半永久的に続く森林です。そこは、さまざまな種類の動物や植物にも安定した

生息場所を提供しています。この天然の森に間伐や下草刈りなど人の手を加えたら、生態系を破壊してしまいます。

***ブナの森は「緑のダム」**／ブナの森は多くの水をたくわえています。林床に降り積もった葉や枝の層は数十センチにもなり、スポンジのように水をため込んでフィルターにかけてくれます。ブナの木1本で10アールもの水田をうるおすことができるといいます。ブナの森から流れ出す水は一年を通じて安定し、天然の養分にも富んでいるのです。

***ブナの森は動物たちのすみか**／ニホンカモシカ、ツキノワグマをはじめとする大型哺乳類、イヌワシ、クマタカなどの生態系の頂点にいる猛禽類をはじめ、ブナの森はたくさんの動物たちの生息・採食・繁殖場

ブナの森はなぜ大切？

所となっています。

***地球上にまとまったブナの森は日本だけ**／ブナは北半球の冷温帯地域の落葉広葉樹林を代表する樹種で、世界に11種類が分布しています。しかし、大面積にブナ林が残っているところは日本の他にありません。

***ブナの森は豊穡の森**／ブナの森はゼンマイや栃の実などの山菜や木の実、さまざまなキノコなどを私たちに与えてくれます。太古のむかしから、私たちが養ってきた恵みの森です。

***ブナの森はやすらぎといこいをもたらしてくれる**／白い樹幹、春の新緑、夏の木陰、秋の黄葉、冬の力強い樹形。ブナの森は私たちにやすらぎを与えてくれる、いやしの森です。

「南会津のブナは地球の宝」

学ぶ会の活動

***ブナ林伐採反対署名活動**(2002年2月～3月)／林野庁が「森を活性化するため」として打ち出したブナ原生林を含む広い範囲の天然林伐採計画に対して「南会津のブナ林を守る連絡協議会」が結成

され、全国から2万596人の署名が寄せられました。このとき、「只見の自然に学ぶ会」は只見町で中心的役割を果たし、町民の約2割の署名を集めました。林野庁は南会津地区のブナ林の伐採を断念しましたが、

今後も見守っていく必要があります。

***ブナ林学術調査に参加**(2002年6月10日)／田子倉湖周辺・浅草岳沼の平・黒谷川・布沢にて／河野昭一(京都大学名誉教授による)／この調査では、ブナを伴った溪畔林という例のない植生構造などが注目され、遺伝子解析などの結果、只見町のブナ林が極めて多様性に富んでいることがわかりました。独特の地形や植生、絶滅危惧種の動物や野鳥も多数生息している只見のブナ林が、質量ともに世界遺産級であることが改めて確認されました。



●残雪のブナ林(叶津川木ノ根沢流域)

只見の自然に学ぶ会

<http://www2.mnx.jp/macska/manabukai/index.html>

水辺林とは河川や湖沼などの水辺に生育する樹林帯のこと。溪畔林・河畔林・湿地林の三つに分けられます。

***魚たちの休息場所**／水辺林がつくる日陰は魚たちのいこいの場所。外敵が近寄れません。

***魚たちのエサ場**／木からは虫が落ち、水底には水生昆虫が集まります。そこは魚のエサ場です。

***鳥やけものたちの隠れ場・移動通路**／多くの種類の生き物が生息していることは自然が豊かな証拠です。

***水温の上昇を抑える**／夏は葉が日差しを遮り、水温の上昇を防ぎます。魚や水生昆虫も一息。水辺林は川のヒサシの役目をします。

***水をきれいにする**／川辺の草や木は川を浄化してくれるすぐれもの。水中の有機物を吸収してきれいな川にしてくれます。

***土手がくずれのを防ぐ**／木の根は土手が水流でけずられるのを防いでくれる、天然の堤防です。

***景観の維持に手間やお金がかからない**／河川敷公園は造成や管理にお金がかかります。桜の木も雪や病気に弱くて大変。



●只見川の水辺林

水辺に自生する木なら、その自然環境になじんでいるので管理費はゼロです。

***私たちの気持ちをなごませてくれる**／川のせせらぎと水辺林は恋人のようなもの。見ているだけで心がやすらぎます。

***水辺林は川を象徴する自然**／水辺林は川の美しさを引き立てます。清流と水辺林がつくる風景こそほんとうの川の姿です。

水辺林の大切な役割

「水辺に原風景をとりもどそう」

学ぶ会の活動

***水辺林再発見プロジェクト** (2003年5月24日)／講演「川と水辺林のたいせつな関係」・シンポジウム「川の宝ものつてなあに？」(季の郷・湯ら里にて)／「全国水の郷サミット」イベント)／私たちは自分の生活を守るために川辺の木を切り土を削り、堤防を作ってコンクリートの護岸をしてきました。でも、

それがほんとうに私たちを守ることであったのか。ここで立ち止まって川を、水辺の風景を見直してみようという企画で、森林総合研究所主任研究官の鈴木和次郎氏を講師にお招きして開いたシンポジウムです。

***水辺林観察会** (2003年5月25日)／翌25日は鈴木講師のガイドで黒谷川を散策、水辺林や草花の観察会を実施しました。空にはクマタカも姿を見せてくれました。

「只見の自然に学ぶ会」の活動に参加しませんか？



只見町には、雄大なスケールのブナ林と溪畔林が存在し、数多くの希少な動物が生息しています。このブナ林と多様な動植物が生息する自然環境は、国の世界自然遺産検討会においても世界自然遺産の候補地に入ったほどです。多雪の影響を受けた独特の地形や植生、生態系を持つ自然は町固有の文化や産業を育み、人々は代々その豊かな自然環境と共に生きてきました。私たちは只見の自然に素直に学ぶことによって自らその価値を再認識し、さらに多くの方々に知っていただくことで、この生態系豊かな自然を町の宝ものとして残していくためにさまざまな活動をしています。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.mnx.jp/macska/manabukai/index.html>

今後の活動予定

毎年恒例の観察会などの他、4月には「只見地域における自然体験活動ガイドライン」を配布。6月には水辺林を考えるシンポジウム(同時開催第13回溪畔林研究会シンポジウム)を実施予定。また、10月町主催開催の「全国水の郷サミット」に合わせて、水辺林マップ(仮称)の作成も予定しています。

会員募集中!

只見の自然を大切にしたい仲間を募集しています。入会ご希望の方は、事務局 佐藤 (Tel.0241-86-2918 E-mail: manabu@mnx.jp) までご連絡ください。